

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		つくしんば				公表日	2025年 6月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13		各々の状況に合わせて過ごせるスペースがある。 子どもがクールダウンできる空間が確保されている。 安全に楽しめるスペースづくりをしている。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		個別対応が必要な子どもがいる際も人数的に可能な体制である。 子どもたちとの遊びや見守りが安全にできるよう配置している。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13		視覚的にわかりやすいようにイラストの紙を貼っている。 不十分な部分には職員がサポートしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	13		緑を感じさせる静かな環境である。 日々の清掃と整理整頓を心がけている。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13		子どもが落ち着ける状況を作れるようになっている。 空間に仕切りを付けやすい環境である。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13		日々話し合われている。 毎日の会議が行われている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		保護者向け評価表はもちろん、保護者の意向の把握は常に行ってている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		日々、振り返り、話し合う時間がある。 日々の会議や気付きのあった時に意見を言えている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	1	理事会による報告と評価を行い、業務改善につなげている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13		外部研修を受ける機会がある。 定期的に全職員対象の内部研修を行っている。		
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		支援プログラムが共有されている。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13		適正にアセスメントが行われ計画が作成されている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13		毎日の会議で共通理解を積み上げている。 会議にてすべてのスタッフが意見を言えている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		共有され、計画に沿った支援が行われている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13		分析し、日々の子どもの適応行動に基づいて確認しながら行っている。 必要により使用し、確認されている。		
適切な支	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13		放課後等デイサービスのすべての支援・内容も踏まえ支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13		チームで話し合っている。 毎日の会議で共有されている。		

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13		日々工夫されている。 子どもの自由な遊びを生かしてプログラムに取り入れている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13		自由遊びが中心だが孤立しないような環境である。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13		活動前に伝えたり、前回の話し合いの内容など見れるようになっている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13		毎日管理職員の出る会議が行われている。 会議にて振り返りと気付いた点等を共有している。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		記録を共有し、話し合われている。 毎日サービス提供記録のほか、ケース記録をとり共有している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	13		行っている。	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13		庭遊びやゲーム機を使う際などスタッフに言うようになっている。 活動の強制が無いように配慮している。	
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		カンファレンスについてスタッフと共有している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13		子どもの通院状況を把握している。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13		送迎時に先生、介助員と情報共有している。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	13		保護者と話をするなど、努められている。 必要に応じて連携している。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	13		移行支援では、学校と対応している。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	13		児童発達支援センターから資料をもらったりして連携を図っている。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5	8	兄弟児との交流の機会を設けている。 行事に兄弟児が参加している。	
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	11	2	まちされん、放課後連などの地域団体に積極的に参加している。	
	34 曰頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		日々伝え合い、話ができる。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	2	親とのラポールのもとで助言をしている。 保護者への情報提供を行っている。	
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		契約時に丁寧に伝えている。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		子どもの意見を親と別に聞いたり、様子を観察している。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13		同意を得ている。	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		随時相談に応じている。 お迎え時など話す機会を作っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	11	2	兄弟同士の交流も行事で支援している。 親子(家族)参加行事を行っている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		保護者とスタッフは話しやすい関係であり、何かあれば迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13		書面配布とメール配信をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		不要になった書類等はシュレッダーにかけている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	2	コロナ以降行事の招待はないがボランティアの受け入れをしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13		作成し、掲示、回覧し、閲覧できるようにしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	1	定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13		把握し、全体共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13		把握し、全体共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13		行われている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13		周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		ヒヤリハット報告書を作成し、閲覧できるようしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		研修し、日々話し合えている。 定期的に全職員に研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13		了解を得たうえで記載している。	